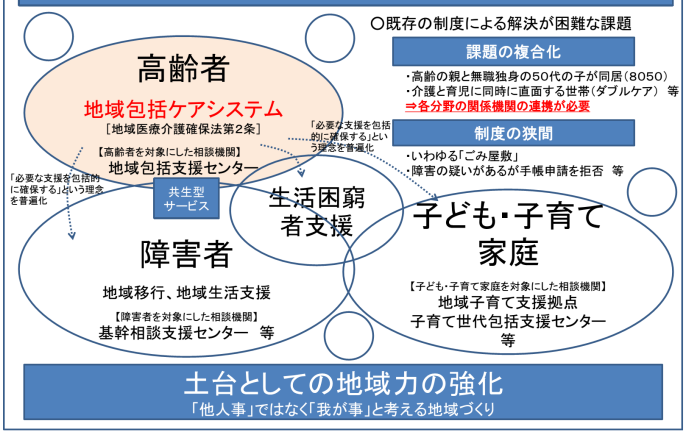
地域で「苦」を支える
ー訪問看護ステーションさっとさんが願生寺の試みー

臨床仏教研究所　特任研究員
大阪教区 願生寺　住職
大河内 大博

さっとさんが

地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制



社会の困難　×　お寺の困難

今、わたしはどんな時代に生き
これから、どんな時代を生きるのか

さっとさんが

ビジョン

すべての生きとし生けるものの
“いのち”を大切にする
地域社会の実現

さっとさんが

ミッション

開基500年に「念仏道場」を
伝えるために

さっとさんが

ポリシー

残して「伝えるもの」
改めて「変えるもの」
新しく「取り入れるもの」

さっとさんが

これからの「社会」を見越して

2025年　「超々高齢社会」（率30%）

2030年代　「多国籍・多文化社会」

2040年代　「超多死社会 / 単身社会」

2050年代　「人口減少社会」（人口１億人以下）

さっとさんが

これからの「時代」を見越して

「病院・施設死」から「在宅死」時代の生き方

選択の余地のない「在宅」

老々介護・看護・
認知症高齢者と地域との共生

ダブルケア（育児と介護）

さっとさんが

これからの「時代」を見越して

人生「100年」時代の生き方

定年後をどう生きるか

先端医療・再生医療との上手な付き合い方

新たな「老病死」との向き合い方と付き合い方

さっとさんが

社会に起こる「苦」

1.生き切る場づくりは間に合うか？

在宅死時代の医療資源の創出
介護力を補い合う地域資源の創出

さっとさんが

社会に起こる「苦」

2.生き切るための死生観は育まれるか？

死生観の意識的自然的涵養（かんよう）

さっとさんが

ＡＣＰ

Advance Care Planning

事前医療・ケア計画

さっとさんが

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。**命の危険が迫った状態になると、約７０％の方が医療・ケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることが出来なくなる**と言われています。

自らが希望する医療・ケアを受けるために、大切にしていることや望んでいること、どこで、どのような医療・ケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。

自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取組を**「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」**と呼びます。

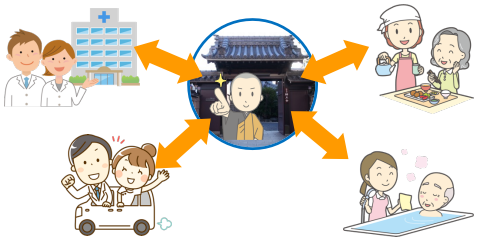
さっとさんが

お寺地域ともいき社会モデル

さっとさんが

お寺で訪問看護

公共性　医療・福祉との連携

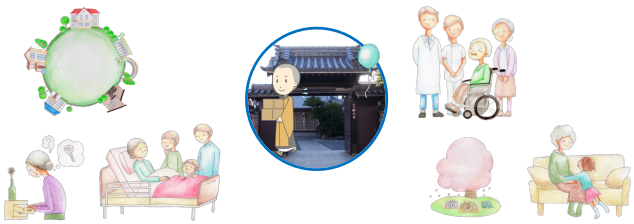


さっとさんが

お寺で訪問看護

当事者性

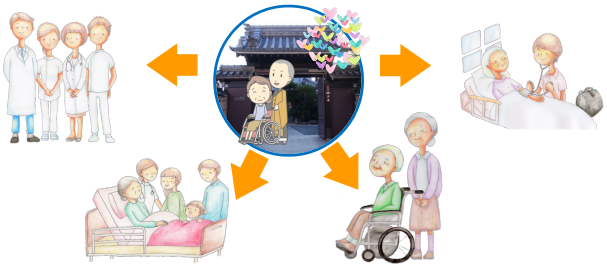
住み慣れた町での暮らしと看取り



さっとさんが

お寺で訪問看護

世代間 看護と看取り文化の見直し



さっとさんが

お寺で訪問看護

スピリチュアリティ

患者家族のスピリチュアルケアと
グリーフケア

さっとさんが

こども食堂・
学習指導

地元高校の
インターンシップ

地域住民への
死生観教育

さっとさんが

災害時初動支援
看護・物資

お産・
子育て

さっとさんが

さっとさんが

ご清聴ありがとうございました。

浄土宗 願生寺

さっとさんが